

平成22年度「青少年のインターネット利用環境実態調査」結果について

平成23年2月
内閣府

1. 調査目的

青少年及びその保護者を対象として、インターネットの利用状況、フィルタリングの認知及び普及の状況並びにフィルタリングの改善ニーズ等を調査し、青少年インターネット環境整備法の実施状況のフォローアップのための基礎データを得る(平成21年度より継続実施)。

2. 調査設計

- 方 法: 調査員による個別面接方式
- 対 象: ①平成22年11月30日現在で、満10歳から満17歳までの青少年(2,000人)
②上記青少年の同居の保護者(2,000人)
- 期 間: 平成22年9月1日～9月20日
- 回収結果: ①青少年調査 1,314人(65.7%)
②保護者調査 1,400人(70.0%)

3. ポイント

- ◆携帯電話の所有は、小学生では約2割、中学生では5割弱、高校生では97%。(別紙1) うち、スマートフォンは、調査時点では限定的(小学生:ゼロ、中学生:約3%、高校生約4%)。(別紙2)
パソコンの使用は、小学生では約8割、中学生では8割半ば、高校生では9割弱。(別紙3)
- ◆携帯電話のフィルタリングは、小中高いずれも昨年度より増加。(別紙4)
パソコンのフィルタリングは、昨年度と比較して、小学生では減少、中高生では増加。(別紙5)
- ◆トラブルや問題行動等の経験では、携帯電話のフィルタリングを「使っていない青少年」は「使っている青少年」より高い(昨年度と同様)。(別紙6)
- ◆フィルタリングの利用や保護者の管理(ペアレンタルコントロール)では、携帯電話とパソコンの双方で、「学んだことがある保護者」は「特に学んだことはない保護者」より高い(昨年度と同様)。(別紙7、8)
- ◆「家庭のルール」有りは、携帯電話とパソコンの双方で、小中高いずれも昨年度より増加。(別紙9、10)
- ◆保護者が求める必要な取組は、「有害サイトへの規制強化」と「家庭の取組への支援」が高い(昨年度と同様)。(別紙11)

4. 概 要

(1) 青少年調査の結果

- 青少年の携帯電話の所有率とインターネット利用率 (報告書p11、p23)
 - 携帯電話の所有率(学校種別)は、小学生では約2割、中学生では5割弱、高校生では97%とほとんど。
 - そのうち、小学生の8割半ば、中高生のほとんどがインターネットを利用。
- 青少年の所有する携帯電話の種類 (報告書p13)
 - 青少年の所有する携帯電話の種類についての青少年の回答によると、スマートフォンの使用は調査時点では限定的(小学生:ゼロ、中学生:約3%、高校生約4%)。
- 「家庭のルール」(携帯電話)の有無 (報告書p29)
 - 携帯電話についてなんらかのルールを決めている家庭は、小学生と中学生では7割半ば、高校生では6割前半(小中高とも昨年度より増加)。
- 青少年のパソコンの使用率とインターネット利用率 (報告書p34、p46)
 - パソコンの使用率(学校種別)は、小学生では約8割、中学生で8割半ば、高校生では9割弱。
 - そのうち、小学生の7割前半、中高生の約9割がインターネットを利用。
- 「家庭のルール」(パソコン)の有無 (報告書p55)
 - パソコンについてなんらかのルールを決めている家庭は、小学生では約6割(61.2%)、中学生では5割半ば(56.3%)、高校生では4割前半(42.8%)(小中高とも昨年度より増加)。

○青少年のトラブルや問題行動等の経験（報告書p59）

➢青少年が経験したインターネット上のトラブル等について昨年度と比較すると、「チェーンメールが送られてきたことがある」はいずれの学校種でも増加している一方、「プロフやゲームサイトで知り合った人とやりとりしたことがある」はいずれの学校種でも減少。

○青少年のトラブル等の経験【携帯電話フィルタリングの有無別】（報告書p62）

➢青少年が経験したインターネット上のトラブル等について携帯電話のフィルタリングの有無別にみると、フィルタリングを使っていない青少年は、使っている青少年より、すべての項目において多い。

(2) 保護者調査の結果

○青少年の所有する携帯電話の種類（報告書p82）

➢青少年の所有する携帯電話の種類についての保護者の回答によると、機能限定携帯電話や子ども向け携帯電話の割合は、小学生約5割前半(53.1%)、中学生1割半ば(15.7%)、高校生1割弱(9.1%)。

○青少年の携帯電話によるインターネット利用(親子のギャップ)（報告書p89）

➢青少年の携帯電話によるインターネット利用について親子間で比較してみると、小中高いずれも子どもの回答が親の回答より多く、双方の認識に差がある。

○フィルタリングの利用率(携帯電話)（報告書p90）

➢携帯電話のフィルタリング利用率(インターネットが使えない機種・設定を含む。以下同じ。)は、小学生で7割台後半(77.6%)、中学生で6割台後半(67.1%)、高校生で約5割(49.3%) (昨年度より、小中高とも10ポイント以上増加)。

○フィルタリングの利用率【保護者の学習経験別】（報告書p92、111）

➢携帯電話のフィルタリング利用率を保護者の学習経験別にみると、携帯電話とパソコンの双方で、「学んだことがある保護者」は「特に学んだことはない保護者」よりフィルタリングの利用率が高い。

○フィルタリングを利用しない理由(携帯電話)（報告書p95）

➢携帯電話にフィルタリングを利用していないと回答した保護者にその理由を聞いたところ、「子どもを信用している」が最も多く(50.4%)、次いで「特に必要を感じない」が多い(34.2%)。

○フィルタリングに関する販売業者の説明の有無【携帯電話の購入時期別】（報告書p102）

➢販売業者に対して「子どもが使用する」旨を申し出た保護者について、フィルタリングに関する販売業者の説明の有無を聞いたところ、「説明がなかった」との回答は、平成19年度以前18.1%、20年度6.1%、21年度10.1%、22年度8.3%。

○「家庭のルール」の有無(親子のギャップ)（報告書p105、117）

➢「家庭のルール」の有無について青少年と保護者の回答を比較すると、携帯電話とパソコンの双方において、なんらかのルールを決めているとの回答は、小中高いずれも保護者の回答が高く、双方の認識に差。

○フィルタリングの利用率(パソコン)（報告書p110）

➢パソコンのフィルタリング利用率は、小中高いずれも3割前後(小学生28.0%、中学生33.5%、高校生27.0%)。

○フィルタリングを利用しない理由(パソコン)（報告書p112）

➢パソコンにフィルタリングを利用していないと回答した保護者にその理由を聞いたところ、「家族で使っているのでそこまで考えなかった」が最も多く(41.7%)、次いで「親がいるところで使っているので必要ない」が多い(39.4%)。

○保護者の管理(ペアレンタルコントロール)（報告書p122）

➢青少年の携帯電話やパソコンの使用に注意していることを保護者に聞いたところ、「マナーや危険性について子どもと話し合うこと」は、学校種が上がるほど多く、「子どもがどのような使い方をしているか、関心をもつこと」、「家庭で利用についてのルールを設けること」は、学校種が上がるほど少ない。

○保護者の管理(ペアレンタルコントロール)【保護者の学習経験の有無別】（報告書p123）

➢注意を払っていることがあるとした回答を保護者の学習経験別にみると、いずれの項目においても「学んだことがある保護者」が「特に学んだことはない保護者」を上回っており、特に「マナーや危険性について子どもと話し合うこと」では約24ポイントの差がある。

○青少年のトラブル等の経験【「あてはまるものがある(計)」】(親子のギャップ)（報告書p127）

➢青少年がインターネット上においてなんらかのトラブル等を経験したかについて、保護者と青少年との間で「あてはまるものがある(計)」の割合を比較すると、小学生では保護者の認識が青少年の回答を約5ポイント上回っているが、中学生ではほぼ同じとなり、高校生では保護者の認識が青少年の回答を約13ポイント下回っている。

○高校生のトラブル等の経験(親子のギャップ)（報告書p127）

➢特に高校生が経験したインターネット上のトラブル等の経験と、高校生の保護者の認識を比較すると、概ね保護者の認識が下回っており、特に、「チェーンメールが送られてきたことがある」では約23ポイント少ない。

○携帯電話やパソコンの危険性についての保護者の学習経験（報告書p143）

➢インターネットの危険性についての啓発・学習経験を保護者に聞いたところ、学校を通じて啓発を受けたという回答(「学校から配布された啓発資料などで知った」、「学校の保護者会やPTAの会合などで説明を受けた」)が、小学生より中高生の保護者で多い(昨年度と同様)。

○子どものために必要な取組（報告書p149）

➢「有害サイトへの規制を強化する」と「家庭における取組を支援する」が他の取組より多い(昨年度と同様)。

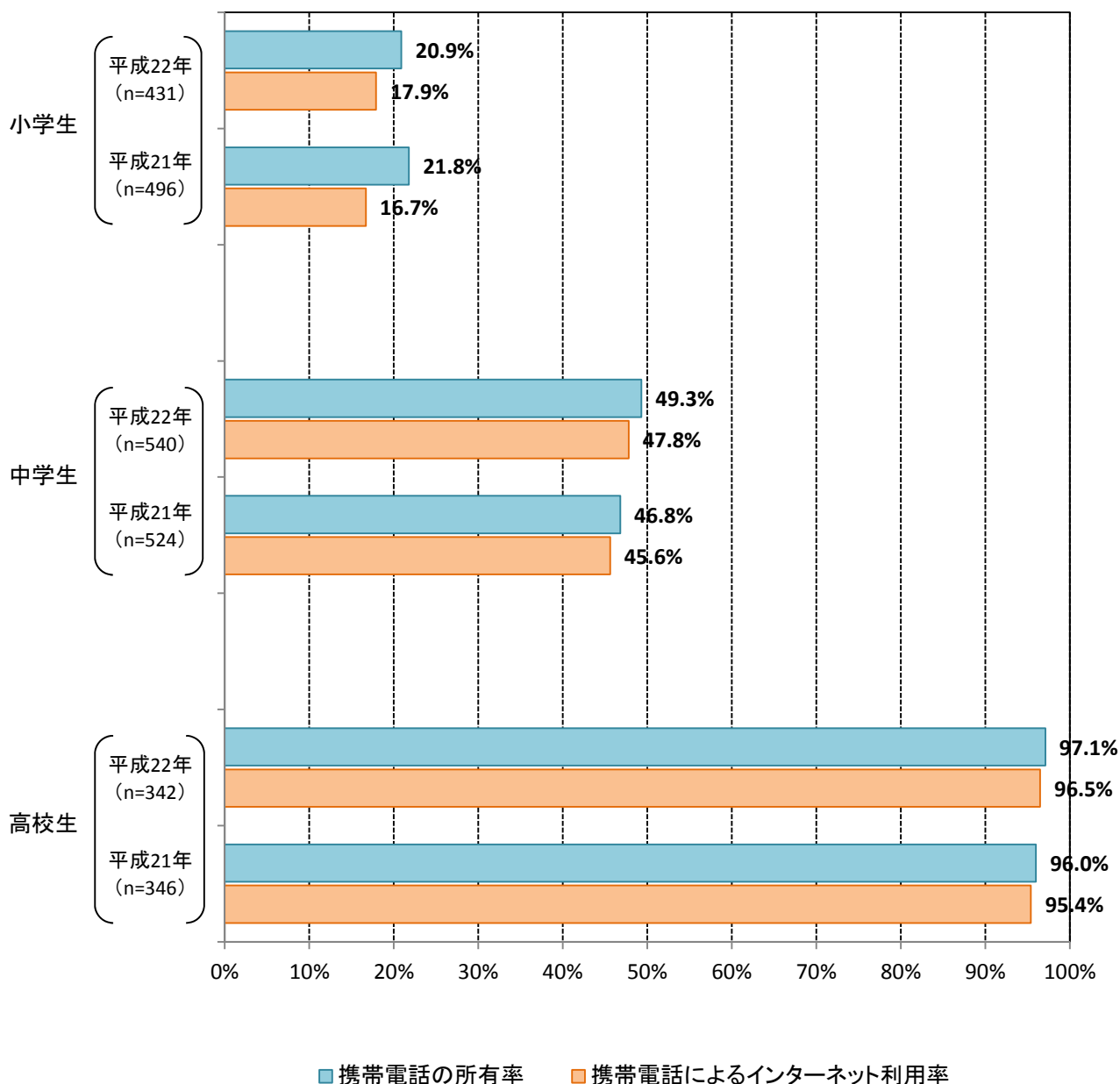
所有率とインターネット利用率(携帯電話)

(青少年調査結果)

○携帯電話(PHSを含む。以下同じ。)の所有率は、小学生では約2割、中学生では5割弱、高校生では97%とほとんどが所有。そのうち、小学生の8割半ば、中高生のほとんどがインターネット(メールを含む。以下同じ。)を利用。

○「21年度調査」※の調査結果と比較すると、携帯電話の所有率も、携帯電話によるインターネットの利用率もともに大きな違いはない。

青少年の携帯電話の所有率とインターネット利用率



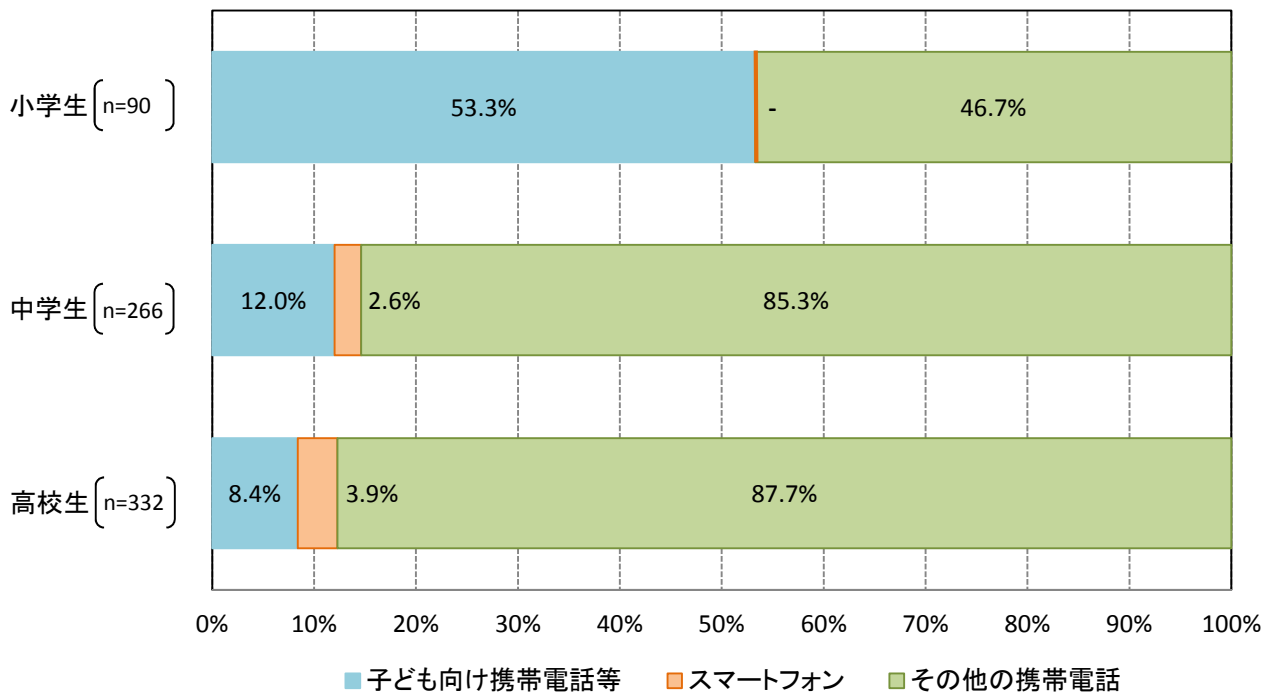
※ 「21年度調査」(内閣府「青少年のインターネット利用環境実態調査」)は、平成21年10月22日から11月8日にかけて調査を実施(平成22年4月公表)。

青少年の所有する携帯電話の種類

(青少年調査結果)

○青少年が所有する携帯電話の種類についての青少年調査の結果を見ると、調査時点では、スマートフォンの使用は限定的(小学生:ゼロ、中学生:約3%、高校生約4%)。

携帯電話の種類



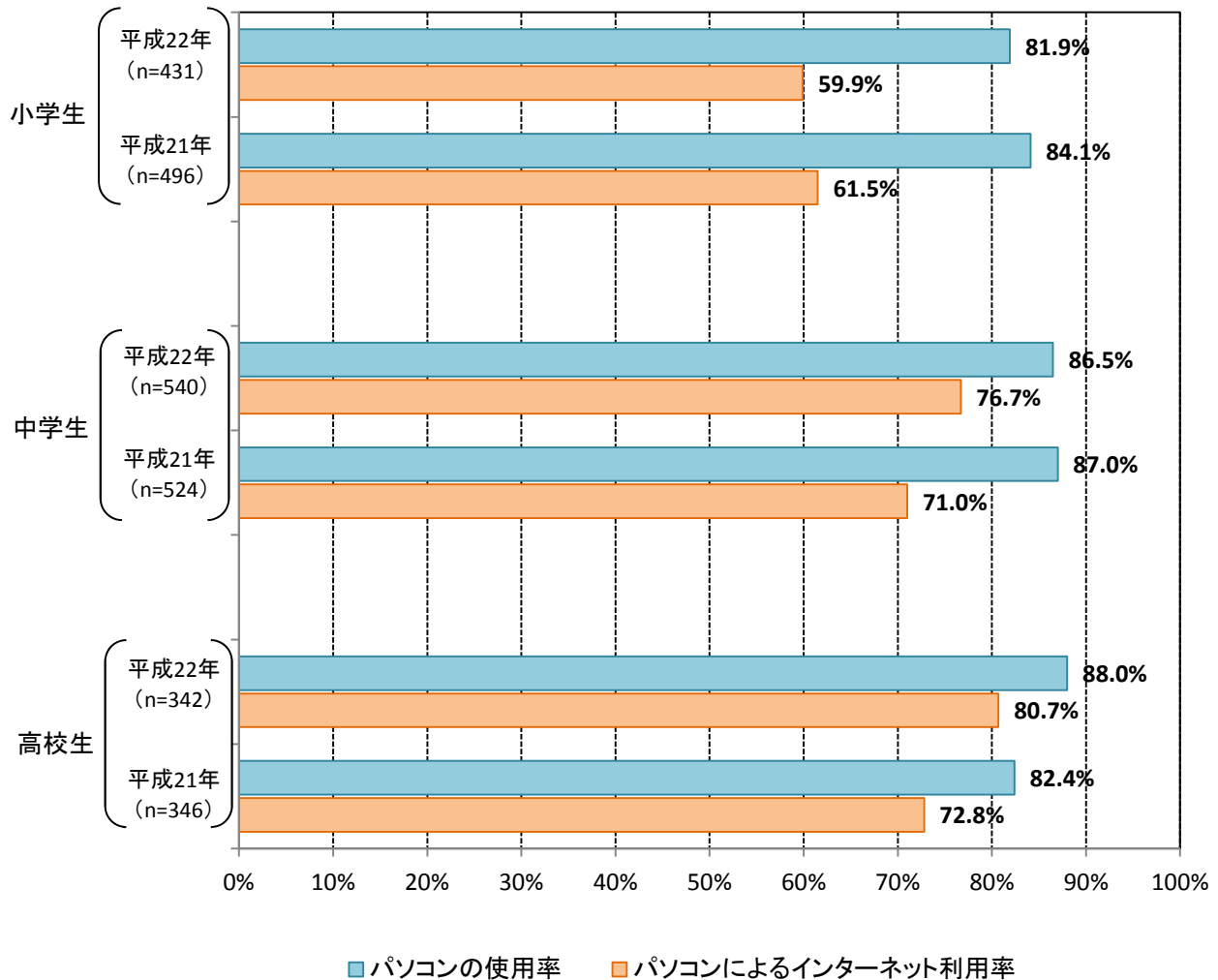
使用率とインターネット利用率(パソコン)

(青少年調査結果)

○パソコンの使用率は、小学生では約8割、中学生では8割半ば、高校生では9割弱。そのうち、小学生の7割台前半、中学生と高校生の約9割がインターネットを利用。

○「21年度調査」の調査結果と比較すると、高校生では、使用率は約6ポイント増加、インターネット利用率は約8ポイント増加している。

青少年のパソコンの使用率とインターネット利用率



※ パソコンの使用につき、「(学校、友だちの家以外の)その他自宅以外の場所でパソコンを使っている」とした回答

小学生: 1.9%

中学生: 1.5%

高校生: 1.2%

※ パソコンの使用につき、「マンガ喫茶やインターネットカフェのパソコンを使っている」とした回答

小学生: -

中学生: 0.4%

高校生: 1.5%

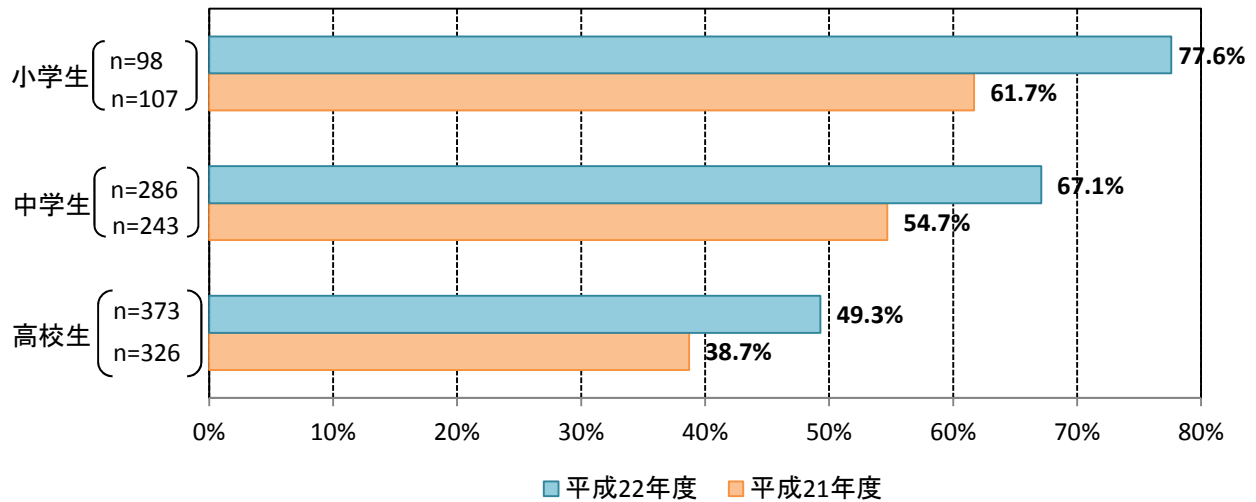
フィルタリングの利用率(携帯電話)

(保護者調査結果)

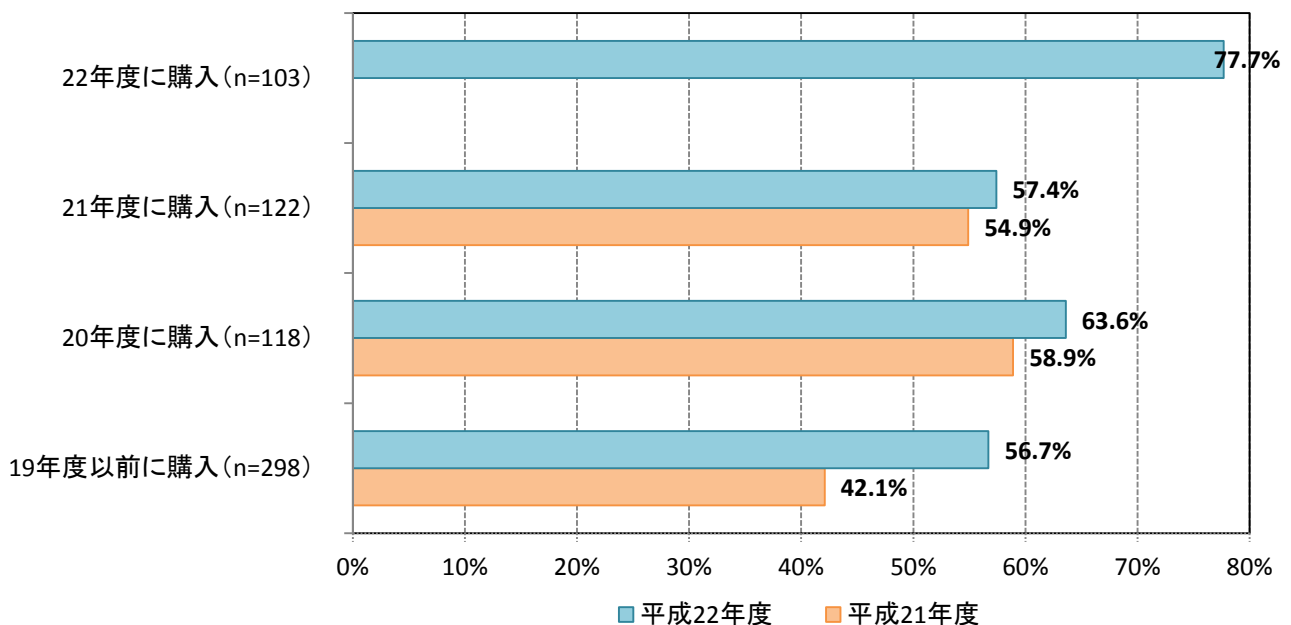
○携帯電話のフィルタリング利用率(インターネットが使えない機種・設定を含む。以下同じ。)は、小学生で約8割、中学生で約7割、高校生で約5割であり、「21年度調査」の調査結果と比較すると、いずれの学校種でも10ポイント以上増加している。

○携帯電話の購入時期で見ると、平成19年度以前は5割半ば、20年度は6割台前半、21年度は5割台後半、22年度は7割台後半。

フィルタリングの利用率(携帯電話)



フィルタリングの利用率(携帯電話)【携帯電話の購入時期別】

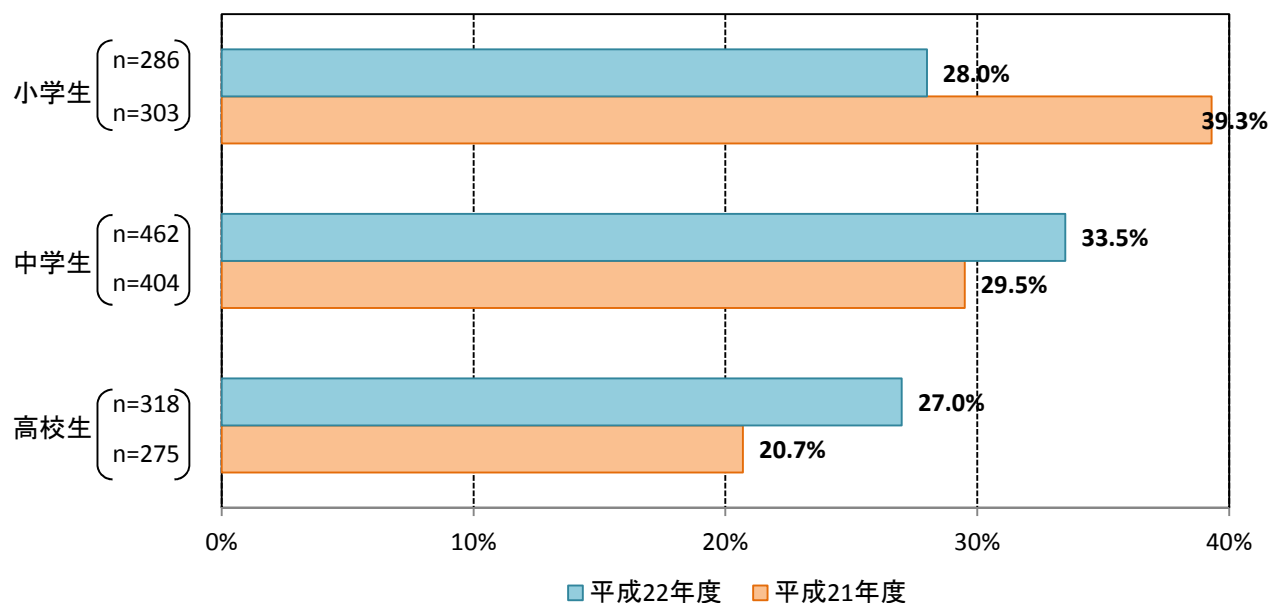


フィルタリングの利用率(パソコン)

(保護者調査結果)

- パソコンのフィルタリング利用率は、小学生で3割弱、中学生で3割強、高校生で3割弱。
- 「21年度調査」の調査結果と比較すると、小学生では約11ポイント減少しているが、中学生では約4ポイント、高校生では約6ポイント増加している。

フィルタリングの利用率(パソコン)

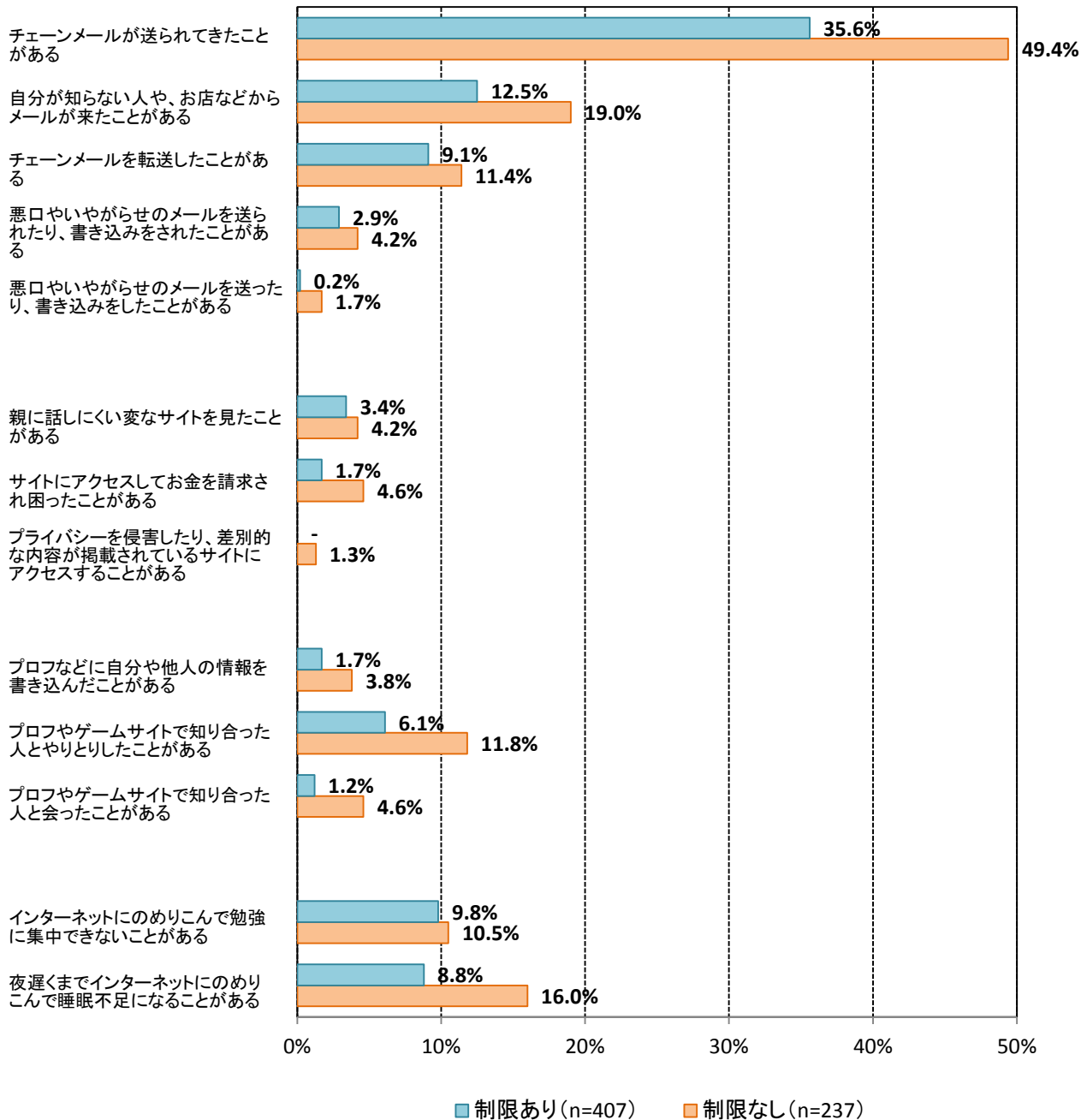


青少年のトラブル等の経験【携帯電話フィルタリングの有無別】

(青少年調査結果)

○青少年のトラブルや問題行動等の経験について、携帯電話のフィルタリングの有無別に見たところ、フィルタリングを使っていない青少年は、使っている青少年より、すべての項目において多い。

青少年のトラブルの経験(フィルタリングの有無別) 複数回答



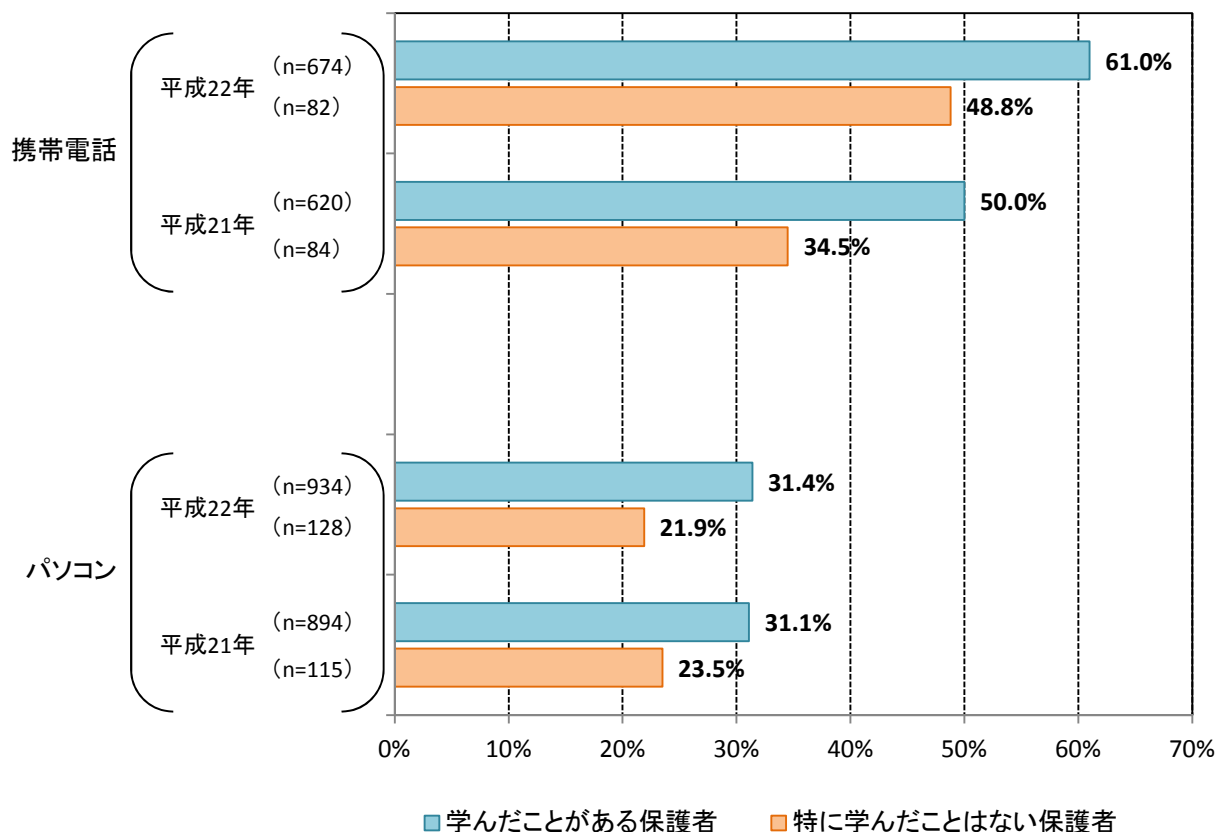
フィルタリングの利用率【保護者の学習経験の有無別】

(保護者調査結果)

○フィルタリング利用率を保護者の学習経験別にみると、携帯電話とパソコンのいずれにおいても、「学んだことがある保護者」が「特に学んだことはない保護者」よりフィルタリングの利用率が高い。

○「21年度調査」の調査結果と比較すると、パソコンについての「特に学んだことはない保護者」を除き、いずれも利用率が向上している。特に、携帯電話では、「学んだことがある保護者」と「特に学んだことはない保護者」のいずれも10ポイント以上増加している。

フィルタリングの利用率【保護者の啓発経験の有無別】

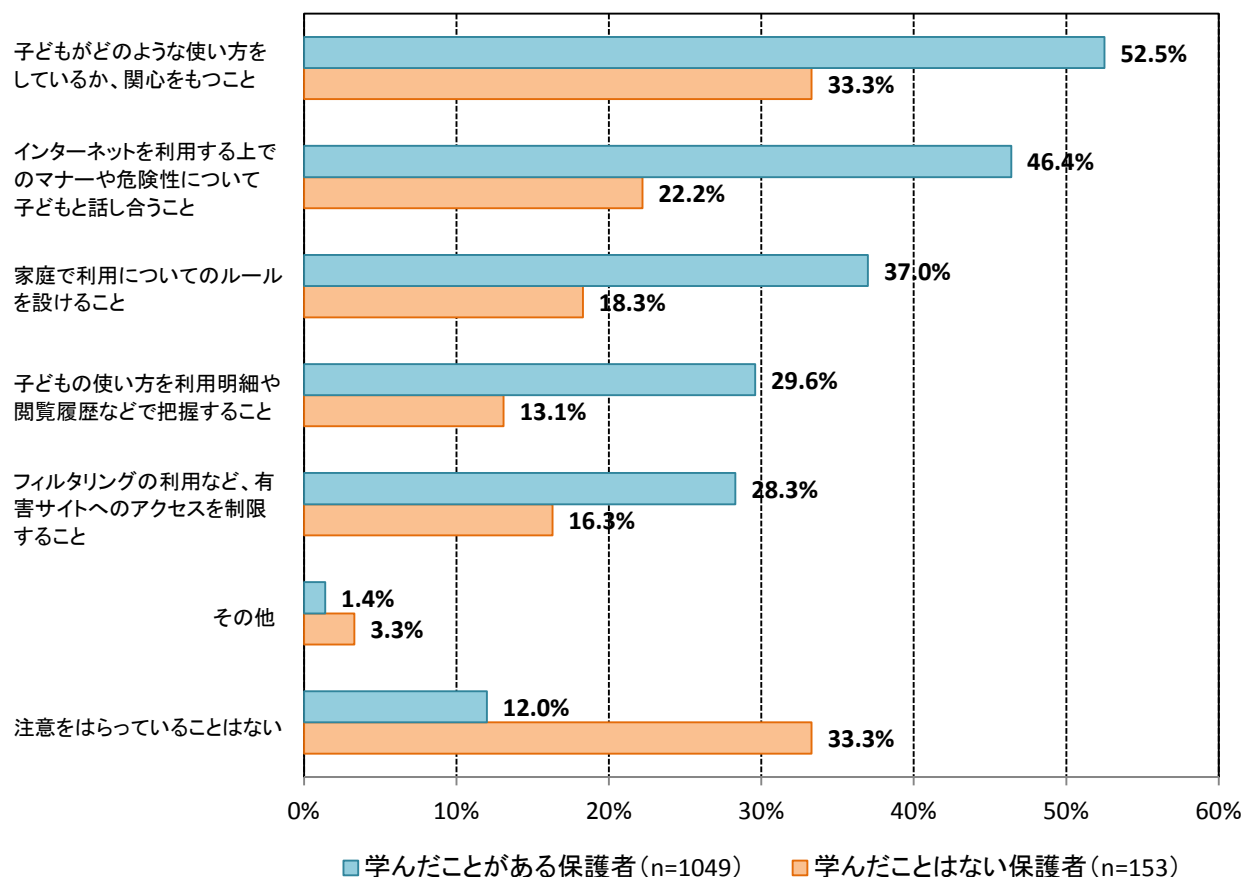


保護者の管理(ペアレンタルコントロール)【保護者の学習経験の有無別】

(保護者調査結果)

○保護者の学習経験別にみると、「その他」を除き、「学んだことがある保護者」が「特に学んだことはない保護者」を上回っており、特に「マナーや危険性について子どもと話し合うこと」では約24ポイントの差がある。

青少年の携帯電話やパソコンの使用について注意していること(親子間の比較) 複数回答

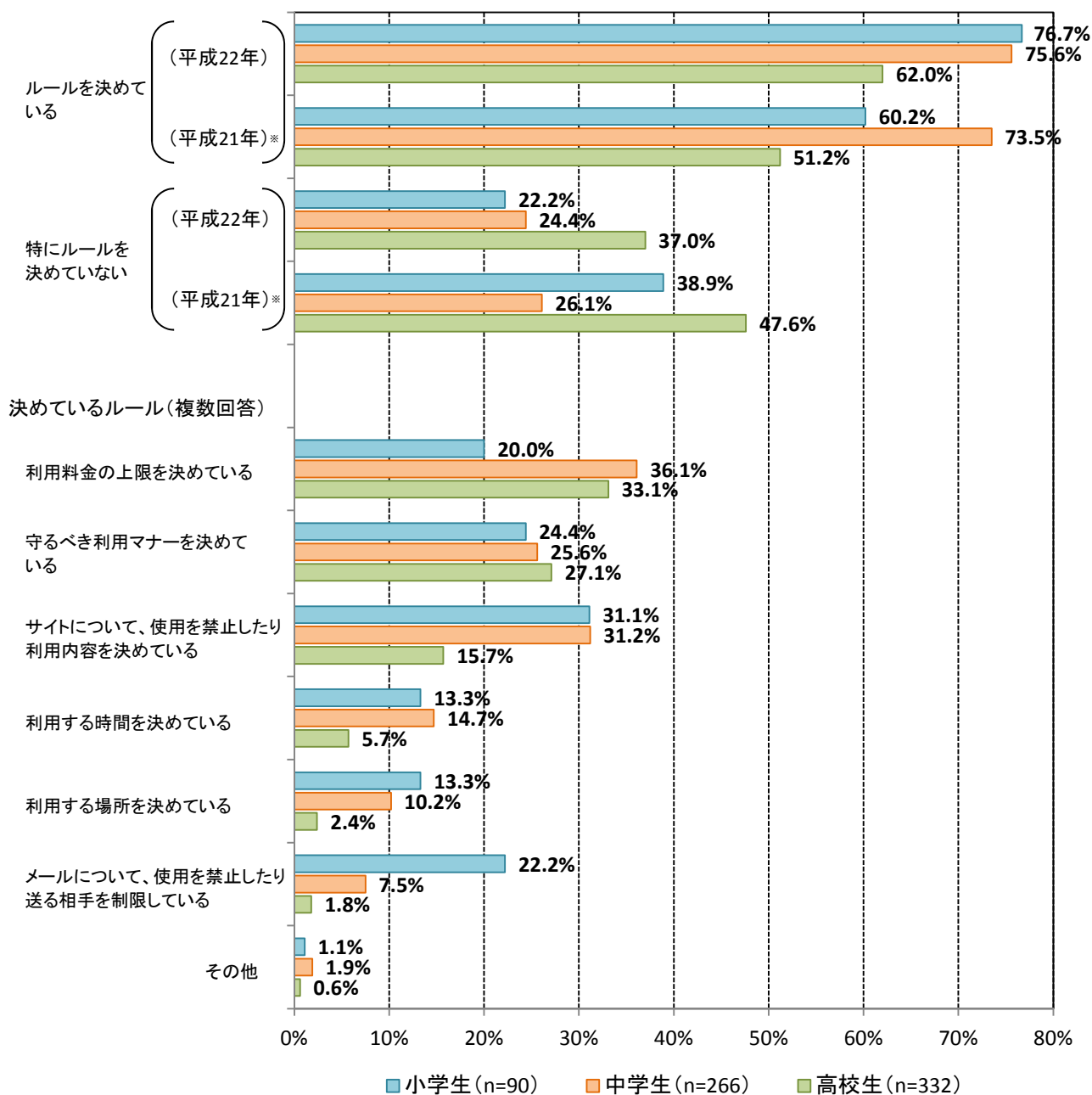


「家庭のルール」(携帯電話)

(青少年調査結果)

○携帯電話についてなんらかのルールを決めている家庭は、小学生と中学生では7割半ば、高校生では6割台前半であり、「21年度調査」の調査結果と比較すると、いずれの学校種でも増加し、特に小学生では約17ポイント高くなっている。

家庭でのルールづくり(携帯電話)



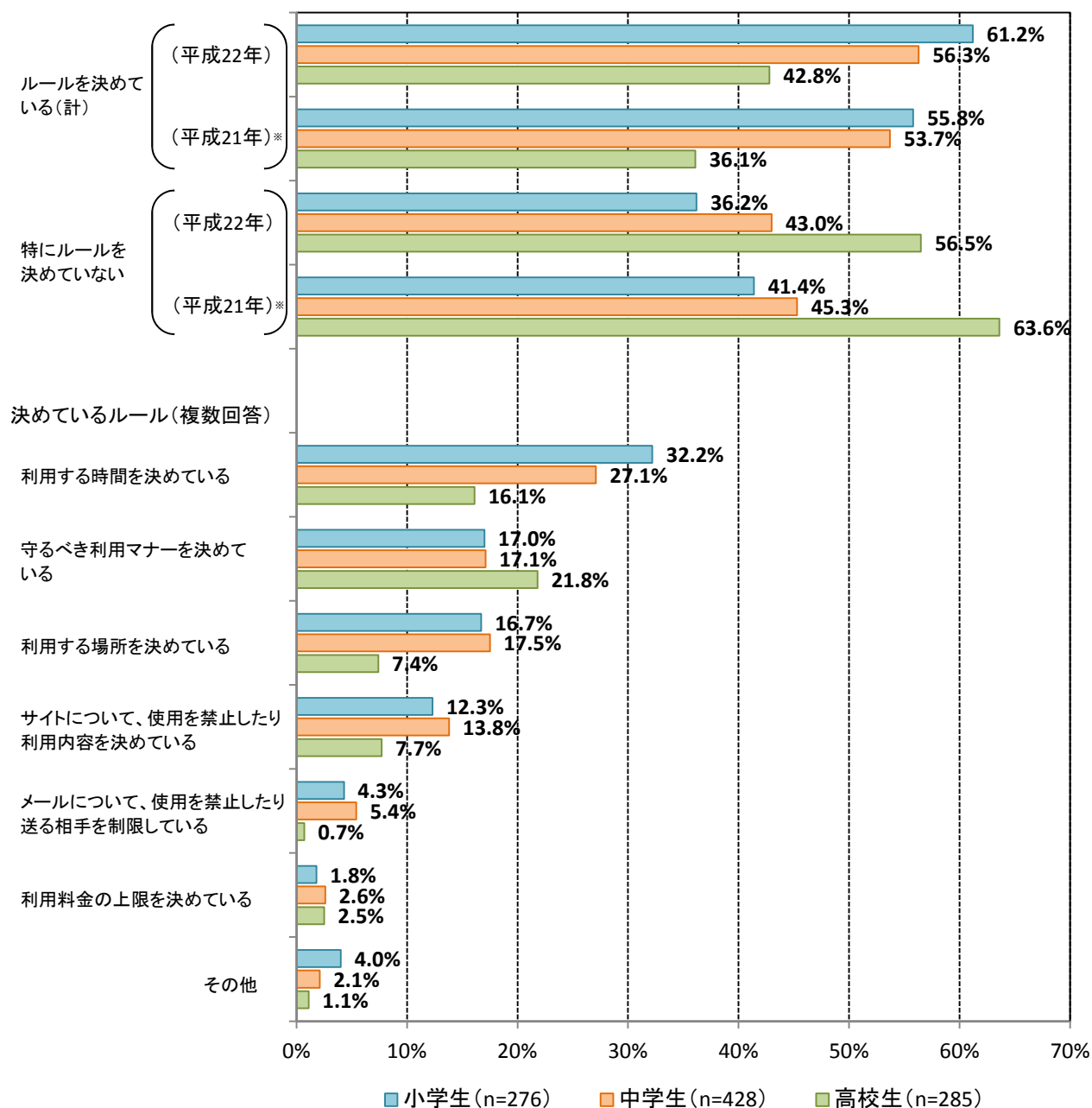
※ 平成21年度のサンプル数は、以下のとおり：
小学生(n=108) 中学生(n=245) 高校生(n=332)

「家庭のルール」(パソコン)

(青少年調査結果)

○パソコンについてなんらかのルールを決めている家庭は、小学生では約6割、中学生では5割半ば、高校生では4割台前半であり、「21年度調査」の調査結果と比較すると、いずれの学校種でも増加している。

家庭でのルールづくり(パソコン)



※ 平成21年度のサンプル数は、以下のとおり:

小学生(n=321) 中学生(n=404) 高校生(n=269)

子どものために必要な取組

(保護者調査結果)

○「21年度調査」の調査結果と同様、「有害サイトへの規制を強化する」と「家庭における取組を支援する」が約6割と、他の取組よりも多い。

子どものインターネット利用に必要な取組 複数回答

